法政大学

SDGs+（プラス）推進特設部会

Voluntary University Review

SDGs+レポート

2023

（Vol.3）

法政大学

法政大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SDGs VUR発行に寄せて

法政大学は、2018年12月にSDGsに関する総長ステイトメントを発表して以降、副学長プロジェクト「SDGs+（プラス）プロジェクト」として精力的にSDGsを推進してきましたが、2023年4月にHOSEI2030推進本部の特設部会「SDGs+（プラス）推進特設部会」へと移行しました。これは、これまでのプロジェクトの成果を踏まえ、本学としてSDGs推進の重要性を再認識し、法人全体でより一層取り組むべき課題であると判断したためです。

この2023年は、SDGsが採択された2015年と目標の達成年である2030年までの折り返し地点「ハーフウェイ」であり、これまでの取り組み成果をレビューするとともに、これからの取り組みをさらに加速させるべき重要な年です。本学としては、プロジェクトから特設部会へと移行させたことで、これまで以上のSDGs推進体制が構築でき、本学独自に定めている「法政大学SDGs+（プラス）2030アジェンダ」についてもアップデートすることができました。こうしたフォローアップ・レビューはSDGs達成に貢献するうえで非常に重要であり、高等教育機関である本学として果たすべき責任と使命であると考えています。本学は、2030年に向けてフォローアップ・レビューを大切にし、持続可能な社会の構築に貢献し続けます。

このたび、フォローアップ・レビューの内容をまとめた「SDGs+レポート2023」を発行する運びとなりました。本レポートは、多くの学生や本学のパートナー企業・自治体の皆様のご協力を得て作成することができました。ここに感謝の意を表したいと思います。

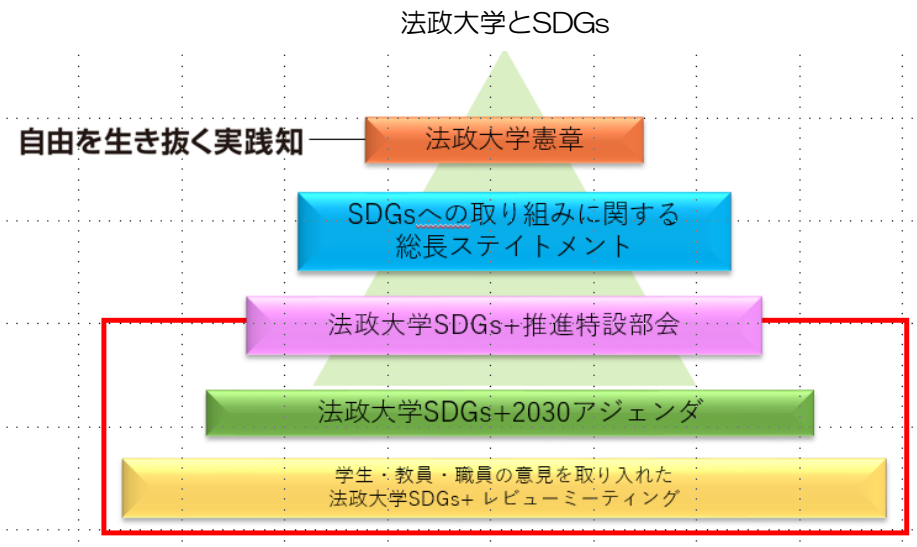
法政大学総長
廣瀬　克哉

法政大学SDGs+(プラス)推進特設部会
と
法政大学SDGs+2030アジェンダ

法政大学SDGs+推進特設部会とは

法政大学では、1999年に環境憲章制定、ISO14001審査登録などを行って以来、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し続けてきました。2016年には法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」を制定し、より一層、地球社会の課題解決への貢献および持続可能な社会の未来に貢献することを謳っています。

2018年12月には、法政大学憲章の下、「SDGsへの取り組みについての総長ステイトメント」を発表するとともに、全学的にSDGsを推進し、法政大学ならではの貢献をプラスするという意味を込めたプロジェクト「法政大学SDGs+(プラス)プロジェクト(現在は推進特設部会)」を設置しました。推進特設部会では「教育」「研究」「社会貢献」「学生」の4つを軸とし、様々なパートナーと連携しながら活動を実施しています。

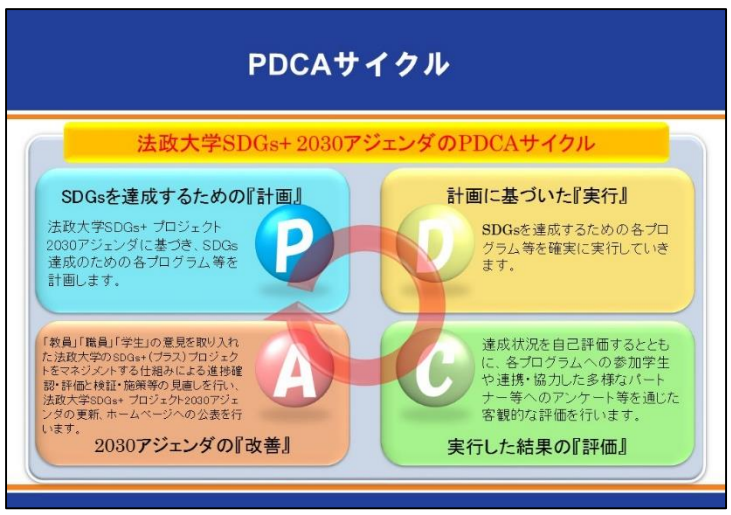


法政大学SDGs+2030アジェンダとは

本推進特設部会では、2020年からSDGsの「行動の10年(Decade of Action)」がスタートしたことを踏まえ、2030年までに達成すべき目標として、「法政大学SDGs+2030アジェンダ(以下アジェンダ)」を策定しています。アジェンダでは、「教育」「研究」「社会貢献」「学生」「パートナーシップ」のゴールを定め、それぞれに、ターゲット、インディケーター、目標値(2030年次)を設定しています。

また、アジェンダの進捗状況を確認し、行動計画の改訂を行うレビューミーティングを毎年実施しています。

このSDGs+レポートでは、ゴールごとの主な活動内容等を報告します。



教育×SDGs

EDUCATION
for SDGs

4 質の高い教育をみんなに

ゴール1

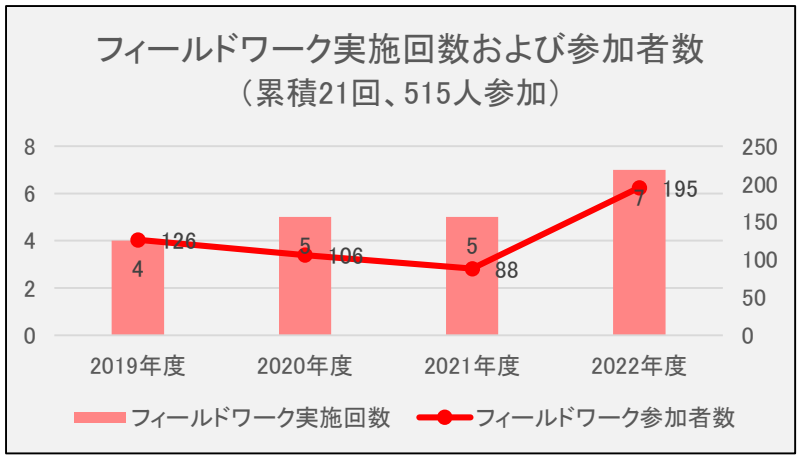
SDGs人材育成のためのあらゆるプログラムを設置し、SDGs人材を世界中に輩出する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
1．1	すべての学生がSDGsについて理解する。	1．1．1	オンライン講座「SDGs入門」の受講者数	累計1万人以上
		1．1．2	SDGsサティフィケート取得者数	累積2,000人以上
		1．1．3	SDGsに関する正課外教育プログラムの受講者数	累積5,000人以上
1．2	すべての学生が多様なフィールドでSDGsを実践する。	1．2．1	SDGsに関係したフィールドワークプログラムの実施数	累積100以上
		1．2．2	SDGsに関係したフィールドワークの参加人数	累積2,000人以上
1．3	すべての学部等においてSDGsに関連する科目を幅広く開講する。	1．3．1	SDGsに関連する科目数	2030年のSDGs科目群への提供科目数1,000科目以上

SDGsを学べるフィールドワーク

法政大学は、「課題解決型フィールドワーク for SDGs」や「STARTプログラム」など、SDGsを実践されている現場を見学し、体験するフィールドワークを正課・正課外問わず展開しています。SDGsについて論理的・体系的な知として学ぶだけではなく、その知を実践力へ転換することを目的としています。

課題解決型フィールドワークfor SDGsは2019年度に開講しましたが、2020年度から新型コロナウイルス感染症の拡大により、予定通りに実施できないことも多くありました。2023年度からは、政府の制限や大学の方針も緩和されましたので、積極的にフィールドワークのプログラムを展開していきます。



STARTプログラム

STARTプログラムとは、SDGsで先進的な取組をしている自治体・企業等からゲストスピーカーを招き、講演ならびに学生とのディスカッションを行うことを通して、SDGsを学び、実際のアクション（行動）に繋げるための思考を学ぶ正課外教育プログラムとして2021年度から開始していた「法政大学SDGs実践知ゼミナール」の発展プログラムです。本学をはじめ、関西大学や明治大学、さらには本学とSDGs連携をしている高校の生徒など、多くの他大学の学生・高校生にも参加いただきました。

千葉県成田市でのフィールドワーク

最終発表会

本プログラムは、一般財団法人三菱みらい育成財団からの助成を受けて実施しており、2022年度は「株式会社みずほ銀行」「株式会社セブン＆アイ・ホールディングス」「三井住友海上火災保険株式会社」「株式会社日本旅行」を講師に招き、講義、グループワーク、現地フィールドワークなどを行い、総勢97名の方に参加いただきました。次年度以降も継続して実施していきます。

STARTプログラム受講学生の声

私は今回、実践知ゼミナール、STARTプログラムを通じて、様々な画期的な経験を積むことができました。産学連携という新しい試みや他大学との交流を通じ、今までにない取り組みや、多角的な視点からSDGsを深掘りできました。プログラム終了時にはオープンバッジと呼ばれる新たなデジタル証明が得られたことも新鮮でした。

SDGsと聞くと、環境的によくしようという考えが第一に浮かぶことがまだまだ多いと感じます。しかし、SDGsというのは言ってしまえば全てにおいて通じるもので、それは環境であれ、経済であれ関係ないと考えます。行政はもちろんのこと、民間企業、学校、一個人もSDGsを意識せざるを得ない時代に入りつつあります。だからこそ表面的で終わるSDGsの取り組みではなく、長期的、半永久的に続けられる取り組み、ビジネス事業としてSDGsに向き合える社会を形成すべく、まずは個人から貢献したいと改めて感じました。

経済学部　国際経済学科
飯田　秋陽さん

研究×SDGs

RESEARCH
&
INNOVATION
for SDGs

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

ゴール2
SDGs達成に貢献する研究を推進し、社会に発信する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
2．1	SDGs達成に貢献する研究やSDGsに関連する研究を活発に行い、発信する。	2．1．1	SDGs登録プロジェクト数	累積100以上
		2．1．2	SDGsに関連した他機関等との共同研究数	累積50以上
		2．1．3	ホームページや冊子等で発信するSDGsに関する研究数	累積1,000以上

SDGs登録プロジェクト

法政大学SDGs+2030アジェンダでは、SDGsに貢献する研究の促進および発信を活発化させるため、「SDGs登録プロジェクト数」をインディケーターとして設定しています。これは、本学内のSDGsに関連した研究を把握・整理するとともに、そうした研究をサポートしていくことを見据えて設定したものでした。しかしながら、これまでの「SDGs+プロジェクト」の実施体制や予算の観点から、「SDGs登録プロジェクト」の設計、プロジェクトの選定、サポートについて、具体的に検討することができていませんでした。2023年度からは特設部会へ移行し、実施体制等が拡充されるため、まずはこれを重点課題として捉え、研究推進を加速させていきます。

理系学部研究室ガイド

法政大学では、理系４学部の研究室を紹介する「理系学部研究室ガイド」を作成しています。2020年度からは、各研究室とSDGsの関わりについて発信していますが、Web版では、キーワード別の絞込検索に加え、ゴールごとの検索機能があります。毎年120以上（2022年度は129）の研究室を発信していますので、ぜひ一度ご覧ください。

アジアの障害インクルーシブな国際協力・開発に関する研究

現代福祉学部
佐野　竜平　教授

幼少時の事故をきっかけに、「障害」と向き合っています。近年でこそダイバーシティ（多様性）やインクルージョン（包摂）などが謳われますが、以前はいわゆる「右倣え右」、すでに答えがあるものを記憶することが学びの中心でした。大学生の時にアジア各地の障害者・関係団体と交流したことで、弱い自分を少しずつ克服していきました。そこは「多様性」を敢えて標榜せずとも多様であり、自分が自分のままでいいのだと思えた空間でした。

表　研究テーマ・概要とSDGsとの関係

研究キーワード	研究関連の主なSDGs目標
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング	8 働きがいも経済成長も　10 人や国の不平等をなくそう　12 つくる責任つかう責任

障害インクルーシブな研究を進める際、障害のある当事者ならではの視点や経験に基づく、言語化がなかなか難しい暗黙知の蓄積を念頭に置いています。そこは真にユニークさや斬新さに溢れた世界で、学生にも共有したいところです。具体的には、アジアを中心とした国際的な見地から、障害インクルーシブな労働・雇用の広がり（SDGs目標8）、障害種別など社会課題から見た格差の解消（SDGs目標10）、障害者の参画による国際的な循環型人材・商品＆サービスの確立（SDGs目標12）などを研究の軸にしています。SDGsはまさに政策や実践に関する研究の切り口になっています。

情報過多社会はますます肥大しています。今流行りの生成AIに「アジアの障害分野の課題を解決するには？」と聞いたところで、そこに本質はありません。多様性溢れるアジアの障害分野が研究対象だからこそ、日本での実践にも精通する必要があります。本学学生および国内外の関係者と共に、粘り強く研究を進めていこうと考えています。

社会貢献×SDGs

SOCIAL CONTRIBUTIONS for SDGs

ゴール3
社会との接続を強化し、誰一人取り残さない社会を構築する。

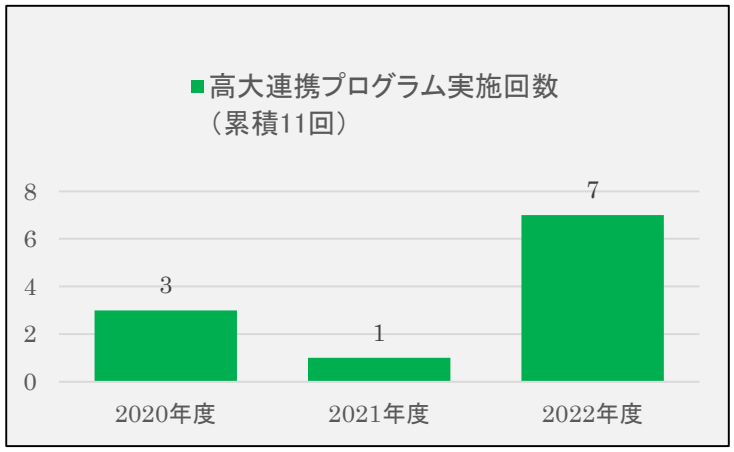
ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
3．1	SDGsの「leave no one behind（誰一人取り残さない）」の理念に基づき、誰もが無償で受けられるプログラムを提供する。	3．1．1	SDGsに関連する講座、セミナー、シンポジウム等の開講数	累積100以上
3．2	SDGsを軸とした高校教育と大学教育の接続プログラムを実施する。	3．2．1	プログラム実施数	累積50以上
3．3	SDGsを軸とした連携事業を活発に実施する。	3．3．1	地方自治体との連携事業実施数	累積100以上
		3．3．2	企業等との連携事業実施数	累積100以上

SDGsに関連するセミナー等の実施

法政大学では、「leave no one behind」の理念に基づき、誰もが無償で受けられる（参加できる）プログラムを実施しています。2022年度は、「SDGs×就活・キャリア」をテーマにしたシンポジウムや、セミナー、連続講座などを実施しました。また、SDGs WEEKsの期間中は、カーボンニュートラルを学ぶことができる動画コンテンツとして「カーボンニュートラルミニ講座」を複数制作し、YouTube上で配信しました。現在も公開していますので、ぜひご覧ください。いずれも最大20分程度のコンテンツです。

（URL：https://www.hosei.ac.jp/sdgs/sdgschannel/）

カーボンニュートラルミニ講座



SDGsを軸とした高大連携事業

法政大学では、早期のSDGs教育および大学生と高校生の世代を越えた学び合いによる新たな刺激・発見を目的に、SDGsを軸とした高大連携プログラムを展開しています。特に2022年度は「STARTプログラム」を実施し、大学生68名、高校生29名が混合でワークを行いました。高校生の斬新なアイディアと大学生の専門知識が混ざり合うことで、受講者にとってとても深い学びとなりました。

2020年度および2021年度はコロナ禍によって想定通りにプログラムが実施できず、累積の実施回数は2022年度時点の目標値（15回）を下回っているものの、2022年度はオンラインが主でありつつも、回数を大きく伸ばすことができました。少しずつ知見やノウハウを積み重ねて来られたことを活かし、2023年度は対面でのプログラムを実施していきます。

脱炭素社会の実現にむけて大学生・高校生の行動変容につながる旅とは

法政大学様と日本旅行は2022年に、SDGsに取り組む企業・自治体・学生がこれからの予測困難な時代に必要な取り組みを共に考えるイベントを企画、実施したところから関係を深めて参りました。また、STARTプログラムにも参画させていただき、昨年から観光をフックとした地域課題解決に取り組んでおります。

今年は那須塩原市を舞台に「脱炭素社会に向けた地域づくり」を企画しています。環境省様や日産自動車様にも協力いただき、先行する様々な取り組みを視察、体験しながら学生と共に将来の地域づくりについて議論を重ねています。

△舞台となる那須疏水公園
那須疏水が那珂川から取水する施設が現在も残され、明治期有数の規模を誇る貴重な土木遺産として国の重要文化財に指定されています。

私たちはフィールドワークを中心にプログラムを構築するようにしています。実際に訪問し、交流するからこそわかる地域の現状があるからです。学生の新しい発想と課題解決に取り組む地域の方々が議論することで、今まで発想もしなかった新しい解決手法が見つかることもあります。

弊社はSTARTプログラムを主体的に学ぶ学生と、地域の交流の場として捉え、私たち観光事業者を交え、地域課題解決を共創していきたいと考えています。ここから多くのプロジェクトがSTARTしてくれる（始まる）ことを期待しています。

株式会社日本旅行
ソリューション事業本部
教育事業部
川原　博文　部長

学生×SDGs

STUDENTS ENGAGEMENT for SDGs

ゴール4

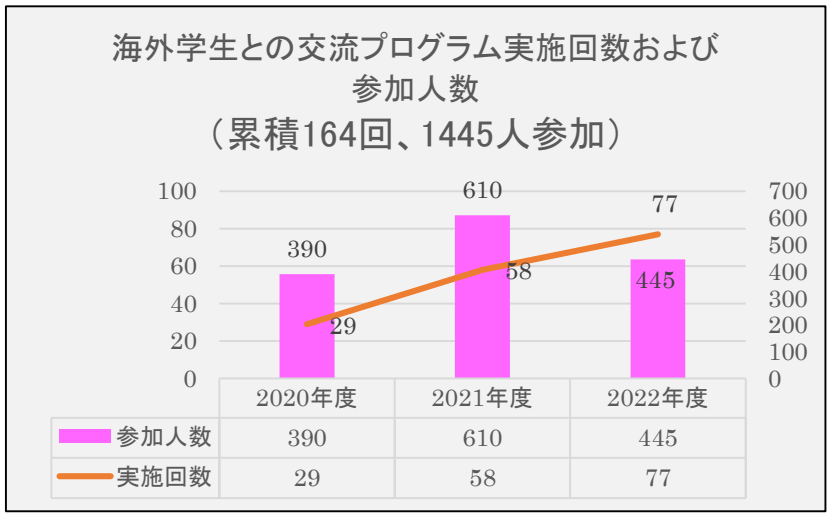
学生があらゆる場所で活躍できるフィールドを提供する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
4．1	すべての学生がSDGs達成に貢献する取り組みを実施する。	4．1．1	SDGs Action Students of HOSEI（SASH）登録者数	累積500人以上
		4．1．2	認定プロジェクト数	累積100以上
4．2	世界中の学生とSDGsをテーマにした交流を実施する。	4．2．1	海外学生との交流プログラムの参加人数	累積4,000人以上
		4．2．2	海外学生との交流プログラム実施回数	累積400回以上
4．3	学生がSDGs達成に貢献する活動やSDGsに関連する活動内容を発信する。	4．3．1	コンテストやポスター展示会などのプログラム実施回数	累積20以上

関西大学との「エコプロ2022共同出展」

法政大学と関西大学は、SDGsを軸とした様々な連携事業を共同で実施しています。その一環として、2022年度は「エコプロ2022」へ共同出展いたしました。ブース内では、SASHの学生による活動紹介やSDGsに貢献する研究の紹介、両大学のSDGsパートナーとの連携事例の紹介などのポスター展示のほか、来場した小中高生対しては関西大学SDGsキャンパスサポーターが考案したSDGsクイズや塗り絵の配布、法政大学の人間環境学部金藤ゼミの学生が考案した各種SDGsカードゲームへの参加を通じてSDGs意識・知識の向上を促しました。3日間で200人以上の小中高生に参加していただきました。2023年度はブースを拡大して出展する予定です。ぜひお立ち寄りください。

エコプロ2022の様子



海外の学生との交流プログラム「e4 Square」

法政大学では、コロナ禍でも充実した学生生活を送ることができるようにすることを目的に、大学や国の垣根を越えた学生国際交流プラットフォーム「e4 Square」を立ち上げました。「e4 Square」では、様々な国や地域の学生たちが、SDGsはもちろん、学部の授業や趣味など幅広いテーマでオンライン交流を行い、多様性を受容しています。学生たちからも非常に人気が高く、想定を上回るスピードで目標値（参加者累積1,000人以上）を達成いたしましたので、目標値を4,000人に再設定しています。

e4 Squareとは・・・

「e4square（イーフォースクエア）」では、日本そして各国から集まった学生ブランナー・学生特派員が、自由で柔軟な発想に基づくオンライン交流会の開催、学生生活をテーマにしたVlog（ビデオログ）の発信を行います。
e4には、everybody（だれもが）、everyday（毎日）、exchange（交流する）に加え、学生自身が「4つ目のe」を決めるという意味が込められています。そしてesquareは、広場を意味しています。オンライン上の広場で、出会いを通じて新しい自分を発見する場所を目指します。

e4 Square Webサイト

SASHの活動　～『ワクワクする未来を創る』～

私たちSASH（サッシュ：SDGs Action Students of HOSEI）は、法政大学公認の学生組織です。モットーは「ワクワクする未来を創造する」。不要な衣服を集めて行う『古着マーケット・ファッションショー』に、廃棄予定の化粧品から作品をつくる『コスメアート体験会』など、SDGsに関する様々な活動をしています。

そんなSASHを私が知ったきっかけは、昨年に行われたユニバーサルスポーツ体験会でした。先輩たちは校舎の真ん中にコートをつくって、道ゆく学生に声をかけては、一緒にボッチャを楽しんでいました。私はそんな様子を見て面白そうだと思い、仲間に入れてもらいました。これがユニバーサルスポーツを広めるSDGs活動の一環だと知ったのは後からでした。遊んでいるように見えても、実は真面目に活動をしていた先輩たち。自分たちが楽しみながら、SDGsに貢献することもできるんだと思いました。

私が活動を始めたのは高い意識があったからではありません。シンプルに楽しいからです。そして、SASHメンバーはそうした“ワクワク”や“ドキドキ”を大切にしています。なぜなら、それが活動を続けるエネルギーと考えてるからです。ワクワクしたりドキドキしながらアクションする中で、多くの学生を仲間にして、また新たなアクションへ繋げていく。それが私たちSASHの目指す未来です。

経営学部経営戦略学科
遠藤　翔太さん

ユニバーサルスポーツ体験会の様子

古着マーケットの様子

SASHのInstagram

パートナーシップ×SDGs

PARTNERSHIP for SDGs

17 パートナーシップで目標を達成しよう

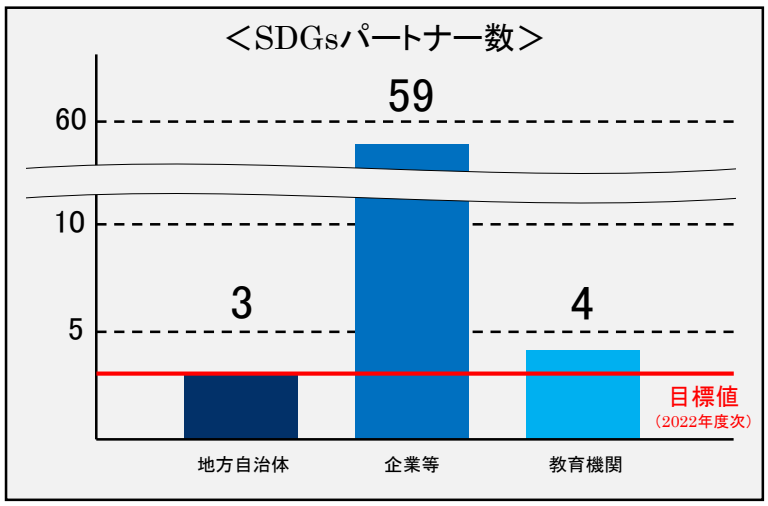
ゴール5
あらゆる課題に対して、パートナーシップで目標を達成する体制を構築する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
5．1	地方自治体や企業、大学など様々なパートナーとの協力体制を構築する。	5．1．1	地方自治体のパートナー数	10以上
		5．1．2	企業のパートナー数	60以上
		5．1．3	大学など教育機関のパートナー数	10以上
5．2	様々なパートナーとコミュニケーションを図り、新しい価値を創造する。	5．2．1	パートナーズ交流会等の開催数	累積10回以上

「法政大学SDGsパートナーズ」加盟団体の状況

法政大学SDGsパートナーズは2022年7月に設立1周年を迎えました。「SDGs+レポート2022」では、地方自治体や教育機関のパートナー数を増加させるため、様々なプログラムを計画していくことを表明いたしました。この1年間は助走期間として、複数の地方自治体や教育機関との意見交換やヒアリングを行い、2023年度以降に向けて連携事業等を計画することができました。今後は、計画した連携事業等の着実な実行を目指し、レビュー＆フォローアップを行い、よりよい連携体制の構築を図ります。

一方で、企業等の加盟数は依然として増加傾向にありますが、加盟数だけではなく、実質的な連携を行えるよう、連携策について検討していきます。



法政大学SDGsパートナーズ交流会を開催

法政大学SDGsパートナーズでは、学生の活動発表の場の提供や、本学とパートナーとの連携事業の促進を目的に、年に2回交流会を開催しています。設立以来、これまでに3回の交流会を開催してきており、目標を達成できるペースです。これまで、初回はオンライン開催、2回目は対面開催で学生とのグループワーク、3回目はユニバーサルスポーツの体験を通した交流など、交流会ごとに新しいプログラムを取り入れており、2023年度以降も新たなプログラムを組み込んだ交流会を計画中です。「開催数」という目標達成のみならず、学生やパートナーの満足度を高め、より充実した交流会を開催していきます。

2022年度の交流会については、右のQRコードからご覧ください。

2022年度
第1回交流会

2022年度
第2回交流会

ワークショップのグループ発表

懇親会でのユニバーサルスポーツ体験

法政大学SDGsパートナーの声

SoZo株式会社は2022年2月から法政大学「SDGsパートナーズ」に加入しました。参加を決めた理由はパートナーズ交流会の存在と、新規企画を一緒に推進してもらえる大学の活動であると感じたからです。弊社はSDGs関連の事業として企業研修eラーニング「SDGsビジネスラーニング」とSDGsニュースメディア「ツヅケル」を運営しておりますが、企業側のSDGsを学ぶ意欲はまだまだ高くないと日々、感じています。「SDGsネイティブなZ世代は増えているのにビジネスパーソンは学ばなくて良いのか？」そんな課題感のもと、産学連携プロジェクトとして法政大学の学生の皆様と共にZ世代×SDGs×就職活動に関するアンケート調査企画「【Z世代】SDGsシューカツ解体白書」を昨年度から立ち上げました。

初年度にもかかわらず企業に私たちの声を届けよう！というスローガンに賛同してくれた全国の大学生・大学院生601名に回答いただき、調査アンケートを公開。2023年2月には発表会を行い「Z世代が選ぶSDGs企業大賞／女性活躍企業大賞」受賞企業にも登壇いただきました。またSDGsパートナーズ交流会でも、パートナー企業の方々の前で本プロジェクトの成果を学生と発表させていただき反響をいただきました。

本活動は「目標１７パートナーシップで目標を達成しよう」を推進する活動として今年度も継続して取り組んでいて、第1期には30名近くの法政大学生が参加してくれています。

◆本調査結果はQRコードからご覧いただけます

SoZo株式会社
あつみ　ゆりか　氏

SDGs+推進特設部会の取組みに対する第三者意見

東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社　都市エネルギー営業本部　公益営業部　法人第一統括本部長　佐藤　昭彦　氏

法政大学様と弊社東京ガスエンジニアリングソリューションズは、エネルギーインフラを起点として、カーボンニュートラル実現に向け様々な取組をご一緒させて頂いています。２０２３年４月に市ヶ谷キャンパスで「カーボンニュートラル都市ガス※」をご採用頂き、その普及拡大と利用価値向上を目的として設立された「カーボンニュートラルLNGバイヤーズアライアンス」にもご加盟頂きました。弊社もカーボンニュートラルと法政大学様のSDGs各種取り組みの親和性に共感し、「法政大学SDGsパートナーズ」に加盟させていただきました。その活動の第一弾として、6月には産学連携ミニ講座で「カーボンニュートラルとエネルギー」を実施させて頂きましたが、SDGs人材の育成、全学一体となったスピード感のある取り組み姿勢には、大変感銘を受けました。

今後も多彩な企業や自治体等のステークホルダーを巻き込みながら、貴学がSDGsへの取り組みを牽引し、持続可能な社会の実現への原動力となることを期待しています。

※天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスを、環境保全プロジェクトにより創出されたCO2クレジットで埋め合わせ（オフセット）することにより、地球規模では、この天然ガスを使用してもCO2が発生しないとみなされるガス

北海道下川町　総務企画課　SDGs推進室長　亀田　慎司　氏

北海道下川町では、町民が主体となり半年間に及ぶ議論のもと、「2030年における下川町のありたい姿」を策定し、町独自で7つのゴール（下川版SDGs）を設定しています。この「ありたい姿」は下川町総合計画をはじめ、町の主要な行政計画の将来像として位置づけ、目標達成に向けて各施策や事務事業を実施しています。

法政大学様と下川町は、2019年9月に、「持続可能な開発目標（SDGs）推進に係る下川町と法政大学の協力に関する協定書」を締結、下川版SDGsの達成度を測る「しもかわSDGsインディケーター」の共同開発を行うとともに、貴学学生にも本町でのインターシップ生としてご協力いただきました。

人口減少が起因する地域課題は山積しているものの、専門的な知識不足により、地域の課題を地域内だけで解決するのは困難な状況下にあります。

今後も、法政大学様からはアカデミックな知見をいただきながら、地域課題の解決に繋げていくとともに、本町からは、SDGsの学びのフィールドを学生に対して提供させていただくなど、「地域課題の解決+人材育成＝SDGs達成への寄与」を目指し、SDGsをキーワードに連携させていただきたく考えているところです。

SDGs+レポート総括

ー法政大学SDGs+推進特設部会座長よりー

Halfway to 2030: 折り返し地点を迎えたSDGsへの取り組み

2015年9月にニューヨークの国連本部で2030アジェンダが採択され、2016年にはSDGs達成に向けた行動期間に突入しましたが、はやくもそのHalfway（中間点、折り返し地点）を迎えるに至りました。その間、国内では関係者の取り組みによってSDGs自体の認知度が急速に高まりました。SDGs達成に向けて取り組むことを宣言する自治体や民間企業、教育研究機関、NPO/NGO、市民の数も日々増えています。

しかしながら、これだけ国内でSDGs達成に向けた大号令がかけられていても、前途は必ずしも明るいとは言えません。SDSN（Sustainable Development Solutions Network）、ベルテルスマン財団が毎年定期的に作成、公開しているSDG Index & Dashboardsの国別レポートによれば、日本はこの5、6年という短い期間でその国際的順位を約10位も落としています。我々の世界を持続可能な形へ変革していくためのアクションの実践が求められています。

SDGsの達成に向けたアクションのフォローアップとレビューが必須

本学がSDGs達成に資する取り組むを行うことを2018年に宣言してから5年の月日が経過しようとしています。真に持続可能な世の中を実現するためには、未来社会を担う優秀な学生たちを輩出し続けていくことが最重要であると認識しており、本学はこれを実現するために様々な対策を講じて参りました。

構成員に行動変容を促すために、「法政大学SDGs+2030アジェンダ（行動計画）」を策定すると共に、その進捗状況を毎年定量的にフォローアップ＆レビューする体制を整備しています。このフォローアップとレビュー作業は本学の全構成員（学生、教員、職員、役員、総長）が毎年一堂に会して行っています。

今回でこのSDGs+レポートの発刊も三度目となりました。本学はこれからもSDGs達成に向けたアクションを展開し、その効果を検証しながら前に進んでいきたいと思います。

デザイン工学部
川久保　俊　教授
法政大学SDGs+推進特設部会座長

SDGsを原動力とした社会システムデザインに関する研究・教育活動を推進中。オンラインSDGsプラットフォーム（Local SDGs Platform, Platform Clover）、SDGsに関するデータベース（SDG Indicator DB）、SDGsに関する理解を促進し、行動を誘発するSDGsスタディパネルなどを開発し、研究室のホームページ上で無償公開している。

Voluntary University Review
「SDGs+レポート2023（Vol.3）」

発行：法政大学SDGs+推進特設部会
2023年9月22日　発行